

七、北千島ノ行政

北千島ハ根室支廳直轄ニシテモ夕町村制ノ實施ナシ但シ五月乃至九月ノ漁獲期
間北海道廳根室警察署ヨリ警察官四名ヲ派シ治安維持ニ任センメリカ北方
巡警備ノ重要性ト漁業ノ隆盛ニ伴ヒ本年五月ヨリ更ニ五名ヲ増派シテ計九名
トセラレアリ 巡査部長ハ警察官中ノ上級者ニシテ柏原灣ニ位置シアリ
村上崎(一)片岡(二)加熊列(三)相原(三)楢鉢(三)疊山(二)尚〇印ハ冬期越冬者ヲホス
其ノ他疊山ニ官設無線電信局アリ但シ郵便局ノ設ナシ

本道及内地トノ通信ハ
凡テ落石無線局ヨリ
疊山無線局ニ至リソ
レヨリ島内各地私設
無線局ニ連絡スルモノナリ



八、北千島ノ宿營カケノ如シ

幌筈島 楢鉢灣 一歩四六
加熊列灣 一歩一六
相原山 一歩一六
村上灣 一歩一六
片岡灣 一歩三六
長崎 一歩一六
村上崎 一歩一六

但シ寢具ノ準備ハ充分ナラス特ニ漁夫升上期ニ於テハ會社工場閉鎖スルヲ以
テ軍ニ雨露ヲ凌ク、又糧秣ノ徵發殆ント不可能ナルヘシ
夏季ハ彼ノ北樺太及北部沿海州地方ノ如ク蚊虫等ノ發害ナシ

九歩兵一中隊ヲ以テ防衛ニ任スル場合配置ノ一案
 警備並防空ノ見地ヨリ歩兵一中隊ヲ以テ北千島ヲ防衛スルトセハ左圖ノ
 如ク配置スルヲ適當トセン



- 備考
- 一、通信ハ無線ニ依ル又連絡ハモーター舟(渡場備付)ヲ利用スルヲ得
 - 二、不足スル場合在郷軍人ノ一部ヲ利用スルヲ得ヘシ
 - 三、壘山無線電信局ハ北海道落石無線電信局ト密連絡ス

十 出張先ニ於テ得タルソ聯領カマチャカ方面ノ情報ニ就テ

〔昭和十三年六月下旬ヨリ七月下旬間調〕〔海圖参照セラレタシ〕

- 一、最近ノ傾向ハ監視及交際極メテ慎重及秘密主義トナル
 従来我出渾者ニ對シテハ現地ソ聯人ハ比較的甚敷悪意ヲ有セス我艦船ノ入港ニ際シテハパン、茶、ニコロー等ノ接待ヲ喜ビテ受ケアリシモ本年ニ至リテハ絶對之ヲ受ケス極メテ監視警戒ヲ嚴重ニシ努メテ接觸ヲ避ケ態度ニ変スルニ至レリ
 又船舶臨檢ニ來ルソ聯人同志相互間警戒シタル情況ナリ
- 二、最近快速艇(速カニハ哩位)ヲ利用シ絶ニス海岸及領海内ヲ積極的ニ監視
 活動シツ、トリ
- 三、濃霧ニ乘シ我出渾船ニ對シ依然、近迫シ來リ警ヘ領海外ナルモ領海内ナリト稱シ之ヲ拿捕或行ハスルノ事實濃霧ナリ本年中約五隻又拿捕セラレタリ
- 四、ソ聯飛行機ハ十月下旬我出渾者内地ヲ揚後最戒ノ手薄ニ乘シ冬期間等時々我占守及幌田島ノ上空ニ飛來シ來ルコトナリト云フ(越年者ノ談)
- 五、ソ聯ノ監視ハ西海岸ヨリモ東海岸ニ在リテ嚴重ナルカセシ

六 西海岸ハ朝ル處敵前上陸可能ナルカ如シ
 七 東海岸ハ北ケヨリ

- オルトルスキー湾 [北六十度]
- グラハリツケ水道 [北五十四度]
- オゼルノイ湾 [北五十七度]
- カムケヤツカ湾 [北五十五度]
- クロノツスキー湾 [北五十四度]
- ペトロ港東側沿岸 [北五十三度]

附近、沿岸ハ朝ル處敵前上陸可能ナルモ其以テ非ハ概シテ斷崖絶壁ニシテ上陸點トシテ不可能ナルカ如シ(航海者ノ談)

八 ボリニヤ川以北西海岸ニ沿ヒ電信線架設セラレアリ
 九 東西両海岸ニアルルニハ何レモ短波無線ヲ有スルカ如シ
 十 東海岸 ペトロボロフスク港(北五十三度)及カムケヤツカ湾禮拜堂附近(北五十六度)及オソツラ湾(北五十九度附近)ニハ短波無線及飛行場アルニト確實ナリト云フ

二 東西両海岸ニハ利権ノ有スル建物附近ヲ除ク外日本人ノ上陸ヲ許サレサルヲ以テ其方面ノ状況ハ知悉困難ナルカ如シ
 三 昨年拿捕進行セラレタル日本人ニテ歸還セシメラタル者ヨリ情報ヲ聽キタル處ヲ綜合スレハ左記要圖ノ如シ
 三 情報ノ蒐集ハ一般ニ困難ニシテ漁業家幹部及漁夫ニ聽クモ長キ資料ヲ得ル能ハサルヲ遺憾トス



十一有事の場合ニ對スル意見

一、要旨

北千島ハ前述、如ク土地廣茫ナルニ比シ位民甚稀薄而モ十月乃至翌年四月ニ至ル所謂越年期間ハ住民僅ニ二百名ニ過キサルノミナラス是等越年者ハ此、函島各所ニ分散シタル狀況ナリ五月ヨリ九月迄ノ五月ニ於テハ漢夫並職工約二千名ニシテ多クハ會社工場等經營者各資本家ニ在傭セラレアル外行政上北千島全体ニ於テ僅カ九名ノ警察官ニ依リ統轄セラレアルノ狀態ニシテ一旦有事、際ニ於テ對蘇對米開戦ノ場合警備並治安維持ニ関シテハ真ニ寒心ニ堪ヘサルモ、アリ殊ニ今ヤ我北千島漢業ハ年産四千五百円ヲ豫想セラル、國家的大事業ナルニ於テ之カ掩護ニ関シテハ一日、急ニラ要スルモノアリ

同ヨリ北洋ニ漢期間我海軍ノ警備艦アリト雖陸上ハ全ク無防禦、儘敵前ニ暴露シ特ニ冬期ハ全ク敵ニ開放シアルカ如キ景况

ニシテ警備防空等ニ関心ヲ要スルコト大ナルモノアリ

二、在郷軍人タル職員職工漢夫等ノ利用ニ就テ

現在渡島中、在郷軍人ハ其數五千ヲ超ユルカ如ク何レモ身体強健、雇傭ノ者多ク中戦時ノ諸勤務ニ堪ヘ得ルモ約三千名ヲ超ユルカセシ此ノ人員ヲ利用セス優ニ北千島ノ警備ニ任シ得ルノミナラス狀況ニ依リ直ニカムチャッカ半島ニ上陸シ得ル可能性アリ

北千島ニ於テ會社工場等ノ使用シタル發動機船ハ其數約二百隻ヲ超ヘ一隻ノ噸數ハ二十噸内外ヨリ三十噸ニ近ク是等連日猛漢業ニ從事シ如何ナル悪天候ヲモ克服シテ出漢シツ、アル光景ハ真ニ敵前上陸ノ壯觀ニモ比スヘキモノアリ殊ニソ聯領カムチャッカヲ眼前ニ睥睨シツ、戦時第一線ノ氣構ヘ及眞劍熱烈ナル愛國心ヲ以テ出漢ヲ敢行シツ、アルモノニシテ其意氣ヤ定ニ悲心發焉嘆ニ值ス若シ是等機船毎ニ小銃ヲ三挺ナリトモ裝備シアラシメハ平時ニ於テモソ聯監視艦ノ如キハ絶對ニ近付カシメサルノミナラス常ニ制海權ヲ

船

確保シテ極メテ自由ニ漁業ヲ遂行シ得ルノ利アリ

最近ニ於ケルソ聯監視船ノ裝備ハ通常一機船ニ對シテ G P W = 依
ル小銃一拳銃一ナルモノ、如クナルヲ以テ我ニシテ如ヒノ一機船ニ擬シ
小銃ヲ所有セシメナハ爾今ソ聯船ヲシテ沿岸ニ於テ跳梁センメ得
サルニ至ルヘシ

之カ爲第セ師團トシテハ平時ヨリ兵器、被服、彈藥、其他(言ハ得サレハ
兵器並彈藥)ヲ準備センメ爲シ得レハ所要ノ諸品ヲ豫メ搬送島
嶼鉢湾漁業會社又ハ警官不信ニ任官ヲ依托スルヲ可トス

三、同右利甲ノ爲ノ準備

ノ各會社工場毎ニ臨時在郷軍人分會ヨリ結成センメ之ヲ宣言備團トスル
コト(下士官以上ニ數名ノ從業員アリ)現在ハ之ヲ設立結成シテニス小會
社等ニ於テハ數個ヲ合シ統合セシム
之橋鉢湾ヲ總本部トシ村上崎、庄岡湾、柏原湾、豊山、加熊別湾
ノ五ヶ所(現ニ各無線局アリ)ニ本部ヲ設ケ指揮連絡ハ無線ニ依ル

三、指揮機關ノ派遣(某期間)

- 各本部ニ中少尉 一 下士官 三
- 總本部ニ少佐 一 少尉 一 下士官 三

以上ノ人員ヲ派遣シテ毎年四月上旬之カ組織並訓練ニ任セン
四、會社工場長又ハ雇傭ニ對シテ國防思想ヲ徹底センメ犧牲的精
神ヲ發露セシム

現下ノ非常時局ニ覺醒再認識ヲ與ヘ自己ノ企業ヨリ得ル利益
ハ之國家ヨリ與ヘラレタル恩惠ニシテ且ハ我軍部ニ於テ現在多大ノ犧
牲ヲ拂ヒ遠路態々彼地ニ簡閱點呼執行ノ爲出張シアル好意ニ對
シテモ充分彼等ヲシテ之ニ對シテ報謝センメ奉公ノ誠ヲ獻ケシムラ
要ス

彼等ノ漁業根據地ハ五箇市ニ在リ九月升揚後同市ニ在リテ事務
ヲ執リツ、アリ
北海道ノ警備防空ノ要領ニ準シテ彼等ニ對シテ高射砲、高射機関砲、同

銃等ノ献納ヲ行ハシメ以テ國家防衛ニ貢獻セシムルヲ急務トス爲
之師團ニ於テハ函館市ニ於テ此等漢業關係者ヲ招集シテ國防軍事
ノ講話ヲ行ヒ以テ如上ノ企圖ヲ遂行センガ如ク促進セラレン事ヲ希望
ス當聯隊區司令部モ亦管區上此舉ニ參馳スルノ甲意アリ

五 北千島開發ニ関スル意見

行政當局ニ於テハ北千島開發ニ関シ夫々議ヲ進メツマアリト聞クモ就中港
灣ノ築設航路標識設置道路開發警察機關ノ擴充ハ急務ナリ
ト認ム

要スルニ北千島及北洋ハ世界ニ大漁場ノ一ニシテ莫大ナル寶庫ナリ逐年興
隆ノ實績ヲ舉ケツ、トリト雖モ未タ住民甚少數ニシテ夏ニテ^{シテ}斬人ニ對
シ冬期越冬スル者僅ニ二百名ニ過キス冬期ハ全ク^{シテ}聯ニ暴露開放
シアルカノ感アリテ警備上遺憾至極ナリト謂ハサルヘカラス

凡ニル開發ノ手段ヲ講シテ逐次永住ノ地ヲラレメ以テ郡司大臣ノ壯圖ヲ
有終ノ美ヲ齊サシメラレンコトヲ望ム

官	副	謀參乙	謀參甲	長謀參	將少附部	長團師

外庶祕笑 七五七號 昭和十九年四月三日
 北海道廳長官 宇塚 貞一郎

內務大臣 梶 野雄殿
 外務大臣 有田 八郎殿
 陸軍大臣 畑 俊六殿
 海軍大臣 吉田 善吾殿
 農林大臣 島田 俊雄殿
 大湊要港部參謀長殿
 石田 部隊參謀長殿

北千島警備警察官ノ派遣
 計畫ニ関スル件

本年度北千島警備警察官ノ派遣ハ北洋
 業ノ飛躍的発展ニ伴フ従業員ノ增加及
 際滿情勢ノ緊迫化ニ鑑ミ別紙ノ通り計
 樹立シ警備取締ノ萬全ヲ期スルヲ定
 之
 茲及申(通)報候也



北海道廳警察部

9

秘

昭和十五年度北千島警備警察官配置計劃

事要下生産擴充ノ國策線ニ沿ヒ北洋漁業ハ飛躍的發展ヲ遂ゲ
是ガ産業戰士トシテ北千島ニ出稼スル勞働者數ハ逐年増加シ
迎リ本年度ハ二萬三百二十九人ノ見込ニシテ前年ヨリ約四千人ノ増
加ヲ見ルベク又歐洲動乱ノ波紋ハ日米ノ國交ノ微妙ナル推移ヲ招
来セシ情勢下ニ於テ占守島ヲ距ル六哩ニテソ聯領カムチヤツカ半
島ト対峙シ一ハ「アリユート」群島ヲ通ジ米國トノ接續地点ニ相
當スル北千島ハ國防上ノ要衝タルノミナラス人子地方ヲ根據トスル北
洋漁業對ソ聯邦ノ不當取締ハ既往ノ事例ニ徴シ益々教化スベ
キヲ豫想セラレ隨而漁業勞働者ノ保護取締並ニ時局下北辺

國土防衛ノ見地ヨリ該地方ノ警備力強化ハ洵ニ緊切ナルモノ
アリ依而北千島警備警察官ノ指揮統制並ニ連絡ノ万全ヲ期
スル爲メ警部補系出張一、巡查出張所一ヲ増設柏原巡查部長
出張所ヲ榑鉢灣ニ移駐海上勤務巡查ヲ巡查部長トシ從來巡
查部長以下十名ノ配置ナリシヲ警部補以下十名ニ変更ノ上左
記要領ニ依リ警備實施ス

記

一、警部補系出張所配置理由

現在ノ北千島警察官ノ配置狀況ハ島内全体ヲ統制スル爲メ柏
原灣ニ巡查部長出張所ヲ置キタルガ管轄区域ハ本土トノ交通
通信連絡悪シキ離島ニテ要急事件等發生ノ場合ト虽モ急
速ナル指揮來援不能ノ特殊情勢ナルノミナラス遂ニ手入ハ有

ノ増加ニ伴ヒ警察業務モ複雑多岐トナリ駐在警察官ノ
指導監督ノ重要性ヲ加ヘ外部的ニモ接歩ノ機会多角のニ
互ルニ鑑ミ新ニ警部補ヲ配置ニ拍原巡查部長出張所ヲ警
部補派出所ニ昇格セシメ攝鉢湾ニ巡查部長出張所ヲ移駐シ
島内警備警察官ノ統一ヲ圖リ以テ同一駐在所ニ同階級
者ニ人勤務ヲ廃止シ執務ノ円滑ト警察行政ノ實績ヲ出
ニトス

ニ 巡査出張所増設理由

(一) 占守島ノ地理的關係

占守島ニ於ケル警備警察官ノ配置状況ハ從來片岡湾ニ名
村上岬一名ヲ配置ニ在リタルガ片岡湾巡查駐在所ノ受持区
域タル際ノ向咲別方面ハ全ク交通不便ニテ便船トシテ利用

セントスル占守丸ハ水産会ノ独占トナリ利用サレズ該地方面
ニ重要事件惹起ノ場合片岡湾ニ根據ヲ有スル北千島水産
株式会社ニ依頼シ用務ヲ弁シツツアル現況ナルガ船用重油
ノ配給不円滑ナル現在該方面ニ漁業根據地ナキ北水会社
ノ便船ヲ毎回使用スルコトハ困難ニ付際ノ向ニ巡查出張所ヲ
設ク上別添略圖ノ通り管轄区域ヲ定ム

(二) 人口關係

地理的關係ト相俟テ入込労働者ノ状況ヲ見ルニ占守島際
間ニ巡查出張所設置ヲ前提トシ

八片岡湾巡查駐在所管内ハ北千島水産株式会社經營漁場
二箇所以地一個所工場漁場數六ヶ所人口二七二名管轄区
海岸線全距離四里二十五丁アリ

2. 陸ノ間巡査出張所管区内ハ海岸線全距離八里十五丁アリ
 其ノ間漁業根據地五ヶ所漁場數十二アリ昨年度ノ入込
 労働者總數二〇五八名ニ及ビ警察事務ニ逐年繁敷ヲ加
 ヘツツアリ

3. 村上岬巡査出張所管区ハ海岸線全距離八里十二丁アリ
 其ノ間漁業根據地二個所漁場數七ヶ所ニテ昨年度入込漁
 業者數八一七名アリ警察事務故ハ片岡灣巡査駐在所及
 陸ノ間出張所ニ比較シ低率ナルモ占守島東海岸中便船最モ
 悪ク主トシテ陸行ニヨリ用務ヲ弁シツツアル狀況ナリ

陸ノ間巡査出張所用建築物ハ
 占守島陸ノ間所在地利北洋水産株式会社ノ既設建築物ヲ使
 用ス

三海上勤務巡査部長配置理由

道廳所属漁業監視船海王丸ニ便乘海上勤務ニ服スベキ外
 事務派遣警察官ハ従来巡査ナリニ趣北千島一四ニ於ケル
 職務執行上諸般ノ不便アリタルニ鑑ミ本年ヨリ巡査部長
 ヲ配置ス

四警備警察官ノ配置

一派遣スベキ警察官

警部補	一名
巡査部長	二名
巡査	八名
計	十一名

右ノ中警部補一名ハ選抜配置トシ巡査部長一名及巡査四名
 ハ現在根室警察署ニ勤務スル者ヲ以テ之ニ充テ他ノ五名ハ

旭川室蘭函館函館水上各警察署巡查中ヨリ適任者各一名
ヲ選抜シタルモノ及外事課勤務巡查部長一名ヲ以テ充ツルモトス
而シテ旭川室蘭函館函館水上各警察署ヨリ派遣スベキ者ニ対
シテハ出發ニ先立テ根室警察署兼務ヲ命ズルコト

二 警備警察官ノ担当区域

外事課ヨリ派遣スル巡查部長ハ海上勤務トシ道庁所属漁業
監視船ニ乗込ミ陸上勤務負ト連絡ヲ執リ専ラ海上ノ警備ニ
任シ他ハ陸上勤務トシ其ノ駐在位置及担当警備区域ハ別添
第一號表ノ通りトス

尚、所轄度島ハ入込者一〇〇人ヲ算シ一般ヨリ巡查出張所設
置ヲ要望サレツアルモ充當建物無キ關係ニテ特ニ本年ハ拍原
巡查駐在所ニ巡查二名ヲ配置シ警部補ノ直轄トシ所轄度島

ヲ管轄セシム

五 警備期間

一 漁業期間警備

自 五月中旬
至 九月下旬

五月十三日根室發渡定北千島航路定期船ニテ根室港ヨリ出發
九月下旬北千島漁業切場ノ大体終了ヲ見タル上歸署セシム
海上警備ニ當ル者ハ五月二十五日頃小樽港ヲ出帆任地ニ向テ發定
ナル道庁所属船海王丸ニ乗込マシメ同港ヨリ出發セシム

二 冬期間勤務

前年度漁期始メヨリ引續キ冬期間勤務ニ在ル巡查三名アルモ
中一名ヲ今回本計劃ニ基キ警察官ヲ派遣シタル際之ト交代歸
署セシメ漁業期間中勤務セ尤巡查ノ中ヨリ三名ヲ殘留セシメ

越年勤務ニ當ラシム

其ノ擔當域別添第ニ號表ノ通り

六 勤務要領

陸上勤務者ハ惣テ根室警察署長ノ指示ヲ受クルモノトス

海上勤務者ハ外事課長ノ指示ニ依リ勤務ス其ノ要領ハ別ニ指示ス

七 出發前ニ於ケル教養

警備警察官出發前五月四日頃一応之ヲ本廳ニ召集ニ北千島

警備ノ重要ナル所以並ニ之ニ從事スル覺悟及勤務上重要ナル

事項ニ就キ訓示並ニ教養ヲ施シ更ニ五月六日ヨリ十二日迄根室

警察署ニ於テ

(一) 外事警察関係事項 二日間

(二) 特高警察関係事項 二日間

(三) 保安警察関係事項 一日間

(四) 労政警察関係事項 一日間

(五) 警防司法警察関係事項 一日間

各項ニ互リ実務教養ヲ実施シ警備上遺憾ナキヲ期スルコト

八 給貸與關係

旅費及通信費ハ概算渡ニトシ尚各自ニ拳銃及必要範圍ノ実

包ヲ貸與携帶セシム

第二號表

越年警備員ノ配置表

駐在所名	駐在所位置	配置員數	指定區域
柏原灣	嶺南島	一查	嶺南島東岸速毛川ヨリ西岸鴨川ニ至ル線ヨリ
播磨灣	嶺南島	一查	嶺南島東岸速毛川ヨリ西岸鴨川ニ至ル線ヨリ
片岡灣	嶺南島	一查	嶺南島東岸速毛川ヨリ西岸鴨川ニ至ル線ヨリ
巡查駐在所	嶺南島	一查	嶺南島東岸速毛川ヨリ西岸鴨川ニ至ル線ヨリ

備考

- 一 冬期間警察上参考トナルベキ事項ハ見聞ノ都度報告書作成
- 二 置キ農林省、中央气象台等ノ所属船入港ノ際之ニ該ニ發送ノ手續ヲ執ルコト